

平成 29 年度 再々評価点検表（内部評価）

1 事業概要

事業名	主要地方道 大阪和泉南線 交差点改良事業（山出交差点）	
担当部署	都市整備部 交通道路室 道路環境課 交通安全施設グループ（連絡先 06-6944-9283）	
事業箇所	泉佐野市上瓦屋～中庄町	
再々評価理由	再評価実施後 5 年間を経過した時点で継続中	
事業目的	交差点部において、右折待ち車両が直進車両の妨げとなり、慢性的な交通渋滞を引き起こし、追突等の事故の原因となっている。このため、右折レーンを設置して、交差点の円滑な交通流を確保するとともに、歩道を拡幅することで歩行者等の安全確保を図るものであり、渋滞解消と交通事故の削減を目的とする事業である。	
事業内容	交差点改良（右折車線の設置及び歩道拡幅） 事業延長：150m（1箇所） 道路幅員：15.0m 車道：2車線 [3.5m×2]、右折レーン [3.0m] 歩道：両側 [2.5m×2]	
事業費 （ ）内の数値は 前回評価時点のもの	全体事業費：約 4.0 億円（約 4.0 億円）〔国：2.2 億円、府：1.8 億円〕 （内訳）調査費等 約 0.3 億円（約 0.3 億円） 用地費 約 3.0 億円（約 3.0 億円） 工事費 約 0.7 億円（約 0.7 億円）	【工事費の内訳】 右折レーン・歩道整備工 約 0.7 億円（約 0.7 億円）
事業費の変更理由	—	
維持管理費	約 25 万円／年〔道路部：33 万円／千㎡・年（過去 5 年府内実績より算出）〕	

2 事業の必要性等に関する視点

	事前評価時点 H14	前回評価時点 H24	再々評価時点 H29	変動要因の分析
事業を巡る社会 経済情勢等の変化	<p>○当該地域周辺の道路状況</p> <p>当該事業箇所には右折レーンがないため、右折車両が 1 台でも停車すると直進車両の通行の妨げとなり、慢性的な渋滞が発生している。また、それに起因する追突・右左折事故が多発している。</p> <p>○交通センサステータ</p> <p>（平成 11 年） 自動車交通量：11,458 台/12h 自転車交通量：261 台/日 歩行者交通量：615 人/日</p> <p>○交通事故発生状況</p> <p>H11～H15：21 件 （うち死亡事故：1 件）</p>	<p>○当該地域周辺の道路状況</p> <p>当該事業箇所には右折レーンがないため、右折車両が 1 台でも停車すると直進車両の通行の妨げとなり、慢性的な渋滞が発生している。また、それに起因する追突・右左折事故が多発している。</p> <p>○交通センサステータ</p> <p>（平成 22 年） 自動車交通量：10,796 台/12h 自転車交通量：369 台/日 歩行者交通量：606 人/日</p> <p>○交通事故発生状況</p> <p>H19～H23：25 件 （うち死亡事故：1 件）</p>	<p>○当該地域周辺の道路状況</p> <p>当該事業箇所には右折レーンがないため、右折車両が 1 台でも停車すると直進車両の通行の妨げとなり、慢性的な渋滞が発生している。また、それに起因する追突・右左折事故が多発している。</p> <p>○交通センサステータ</p> <p>（平成 27 年） 自動車交通量：10,471 台/12h 自転車交通量：416 台/日 歩行者交通量：625 人/日</p> <p>○交通事故発生状況</p> <p>H24～H28：21 件 （うち死亡事故：0 件）</p>	自動車交通量は若干減少しているが、右折車両が多く、未だ渋滞は解消されていない。
地元の 協力体制等	地元市等から早期整備要望がなされている。	地元市等から早期整備要望がなされている。	地元市等から早期整備要望がなされている。	
事業の投資効果 <費用便益分析> または <代替指標>	・交通安全事業における費用便益の測定手法が確立されていない。			
事業効果の 定性的分析 （安心・安全、活力、 快適性等の有効性）	<p>【効果項目】</p> <p>〔安全・安心〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・右折レーンの設置による事故防止（交通事故の削減） ・歩行者等の安全確保 <p>〔活力〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・渋滞解消による物流の効率化 <p>〔快適性〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通行性の向上に伴う渋滞緩和 ・交通利便性の向上 <p>【受益者】</p> <p>道路利用者</p>			—

	事前評価時点 H14	前回評価時点 H24	再々評価時点 H29	変動要因の分析
事業の進捗状況 <経過> ① 事業採択年度 ② 事業着工年度 ③ 完成予定年度	① 平成 15 年度 ② 平成 15 年度 ③ 平成 19 年度	① 平成 15 年度 ② 平成 15 年度 ③ 平成 27 年度	① 平成 15 年度 ② 平成 15 年度 ③ 平成 32 年度	用地交渉に時間を要したため
<進捗状況>	—	○全体 5% (0.2 億円/4.0 億円) ・調査費等 67% (0.2 億円/0.3 億円) ・用地 0% (0 億円/3.0 億円) ・工事 0% (0 億円/0.7 億円)	○全体 7% (0.27 億円/4.0 億円) ・調査費等 90% (0.27 億円/0.3 億円) ・用地 0% (0 億円/3.0 億円) ・工事 0% (0 億円/0.7 億円)	
事業の必要性等に関する視点	・安全安心の確保や渋滞解消に資する事業であり、自動車及び自転車・歩行者交通量や交通事故件数も依然多い状況であり、事業の必要性に変化はないため、継続する。			

3 事業の進捗の見込みの視点

事業の進捗の見込みの視点	用地取得が難航しており、前回評価時点（平成 24 年度）より 5 年の遅れが生じたが、地元の協力が得られ、事業の必要性に変化はないことから、事業を進めていく。
--------------	---

4 コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点	歩行空間確保や交差点改良を目的とした事業であり、代替案立案の余地はなく、現計画が最適であるため、継続する。
---------------------	---

5 特記事項

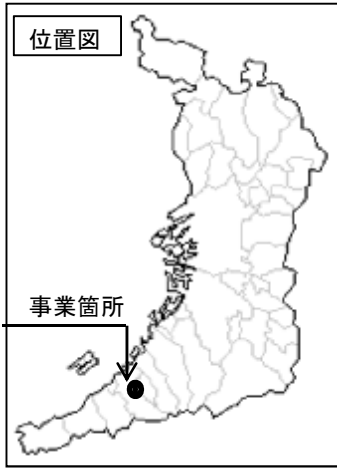
自然環境等への影響とその対策	一部用地確保を行うが、周辺は市街地が形成されており、本事業において新たに自然環境に影響を与えることはない。
前回評価時の意見具申（付帯意見）と府の対応	—
上位計画等	○「大阪府都市整備中期計画（案）改定版(H28.3)」
その他特記事項	

6 評価結果

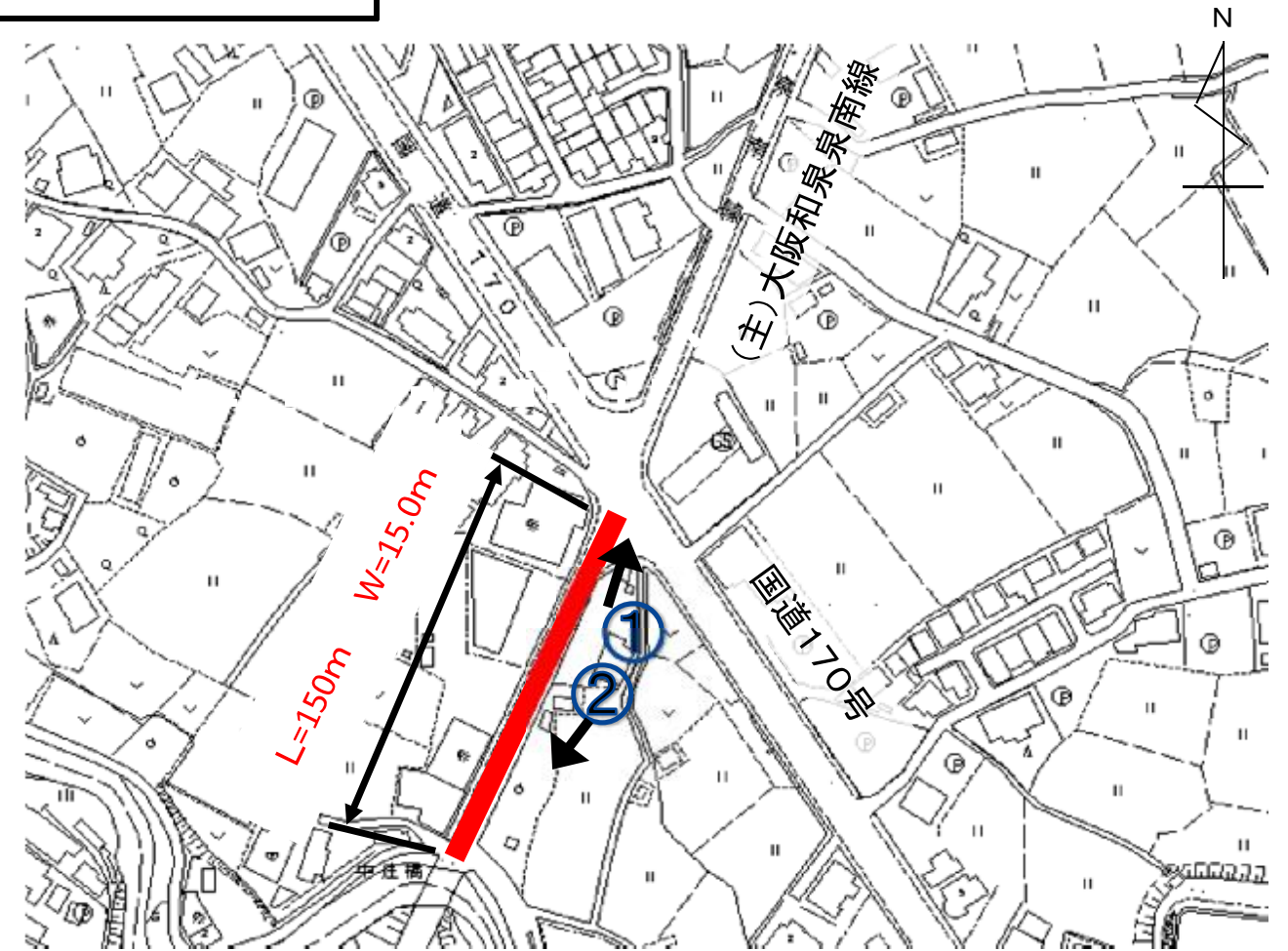
評価結果	○事業継続 <判断の理由> ・事業実施について、地元の理解が得られるまで協議を継続してきたことによる遅延があったものの、依然として交通事故が多発しており、また地元の理解も得られるなど、事業の必要性に変化がない。 以上の理由から、事業を継続する。
------	---

平成29年度 再々評価 (大阪和泉泉南線 交差点改良事業)

事業箇所図



平面図



現況写真

①



②



標準断面図

